

リニア中央新幹線 三重・奈良・大阪ルート of 早期実現

平成29年11月

【担当省庁】国土交通省

国にお願いすること

1 「奈良市附近」の駅位置及び三重・奈良・大阪ルートの早期確定

- (1) 地元が用地取得、土砂処分、住民調整を前倒して実施し、また、駅周辺のまちづくりの具体的な検討・計画的な整備により、民間投資を前倒して呼び込むことができるよう、「奈良市附近」の駅位置及びルートを早期に確定すること。
- (2) ルートは、リダンダンシーの観点から、整備計画通り、東海道新幹線とできる限り離れた「奈良市附近」を経過地とする、三重・奈良・大阪ルートとすること。

2 環境影響評価に係る手続きの早急な着手

「奈良市附近」の駅位置及び三重・奈良・大阪ルートを早期に確定するため、速やかに名古屋～大阪間の環境影響評価手続きに着手されるよう、国において調整すること。

3 県内への車両基地の設置

名古屋～大阪間の車両基地は、大阪のターミナル駅の近傍である奈良県内へ設置すること。

4 早期事業化による一日も早い全線開業

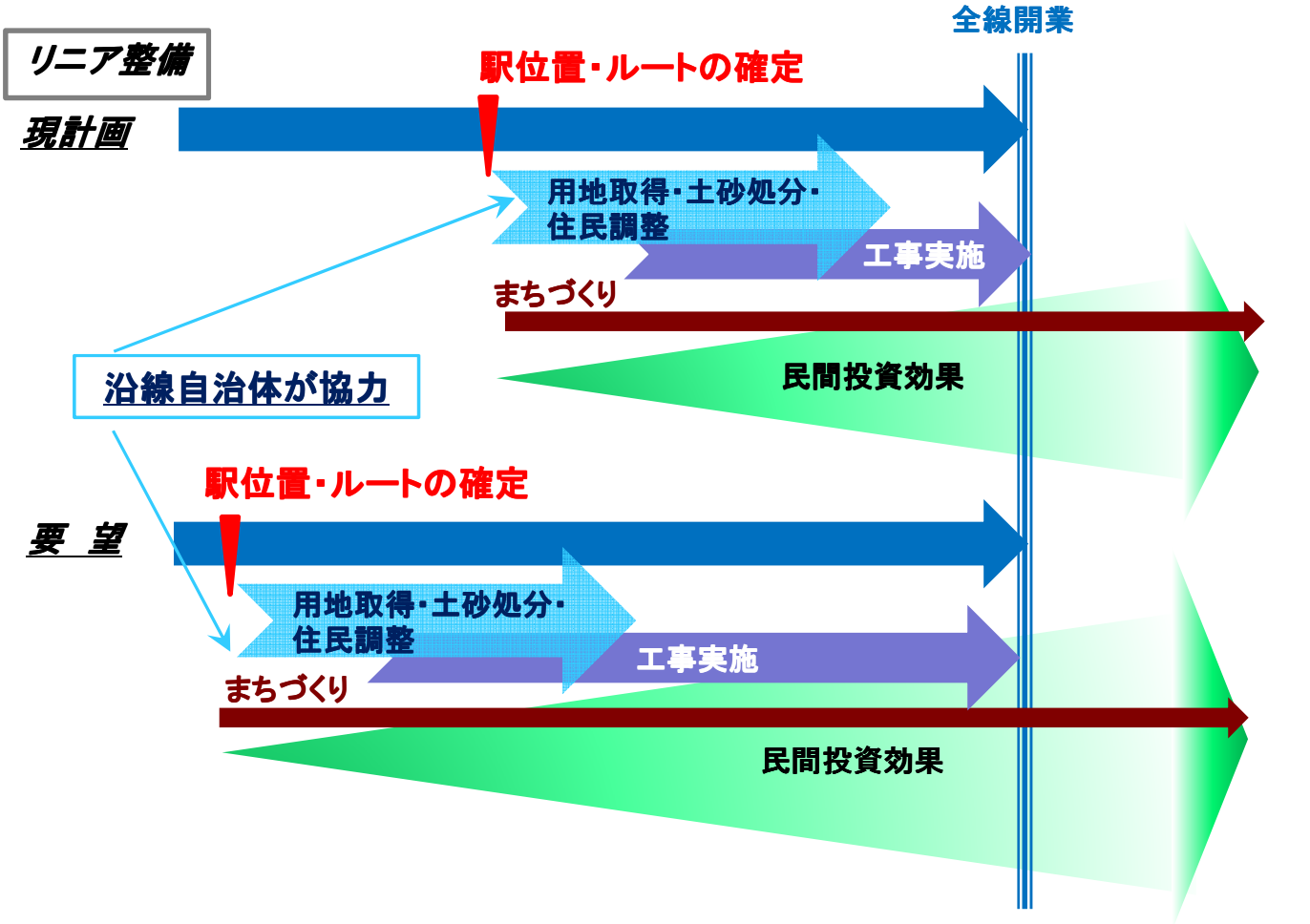
リニアの効果を広く全国に行き渡らせるため、間を置くことなく名古屋～大阪間の早期事業化を図り一日も早い全線開業を行えるよう、事業の進行管理に万全を期し、まずは全線開業8年間前倒し(平成49年の全線開業)を確実なものとする。

【奈良県における取り組み】

- リニア中央新幹線建設促進奈良県期成同盟会 総会決議
平成29年5月23日 奈良県同盟会総会
- 三重・奈良・大阪リニア中央新幹線建設促進決起大会 大会決議
平成29年9月11日 三重・奈良・大阪建設促進決起大会
- リニア中央新幹線建設促進期成同盟会 総会決議及び要望活動
平成29年8月31日 全国同盟会総会

■ 駅位置・ルートの早期確定の効果

用地取得、土砂処分、住民調整など事業促進の環境整備を前倒して協力できるとともに、計画的なまちづくりを進めることで、民間投資の前倒しによる、景気刺激を誘発できます。



リニア駅のあるまちづくりイメージ図

[事例：北陸新幹線 長野県佐久市 新幹線駅を核に新しい市街地形成]



整備前



駅開業から10年後

出展「北陸新幹線(高崎・長野間)事業に関する事後評価対応方針」(H20.3(独)鉄道建設・運輸施設整備支援機構)